



——東地中海・北アフリカ地域ニュース——

シリア：周辺国の動き（報道まとめ）

米国、英国、仏国は、シリアが化学兵器を使用したと判断し、懲罰的な軍事行動を行うとした。8月末に攻撃が実行されるかもしれないと報道されたが、8月28日時点では、米国、英国、仏国は、準備はできたが、攻撃の決定はまだしていないとの立場を維持している。英国、仏国は、29日にシリア制裁について議会で協議する。

国連安保理は28日に英国が提案した対シリア制裁決議案を協議したが、ロシアと中国が反対した。安保理は、30日に会合を開催する予定だが、英国が提案を取り下げる可能性があるとも報道されている。

シリア周辺国の動き

イスラエル

シリア周辺国で、シリアが制裁的な軍事攻撃を受けた後の反応を一番気にしているのがイスラエルである。シリア政府要人がイスラエルに対する報復を口にしたこともあり、イスラエル政府は、攻撃されたら全力で反撃する姿勢を見せた。しかし、28日時点では、イスラエル軍は、シリアがイスラエルを報復攻撃する可能性は低いと分析していると報道されている。

ただシリアからの攻撃を想定した準備は進められている。イスラエル軍は、情報部門、防空部門の予備役兵士数百人を招集した。軍は、イスラエル北部の防空体制を強化している。イスラエルは、シリアが攻撃された後、レバノンのヒズブッラーの攻撃を受けた場合、シリアからの攻撃と見なすとしている。市民は、万一の場合に備えてガスマスクを入手する人が急増している。

ヨルダン

8月27日、ヨルダン政府高官は、シリアへの軍事行動が自国領からなされることはないと言った。8月25日からアンマンで、欧米・中東諸国の軍幹部が参加した3日間のセミナーが開始された。内容は発表されていない。報道によると、参加国は、米国、英国、仏国、独国、カナダ、伊国、トルコ、サウジアラビア、カタール、ヨルダンである。シリア内戦の周辺国への拡散を阻止する方法を協議すると報道されている。米軍のデンプシー統合参謀議長が参加している。同議長は、8月中旬にイスラエルとヨルダンを訪問したばかりである。同議長は、今回ヨルダンを訪問する前の8月23日、イスラエル軍のガンツ参謀総長と電話で会談してシリア情勢を協議している。

トルコ

トルコのダーヴトオール外相は、8月28日、トルコ軍が警戒態勢に入ったと言った。

イラン

ロウハーニー新大統領は、8月28日、ロシアのプーチン大統領とシリア情勢について電話会談した。ロシア大統領府は、両者は化学兵器の使用を受け入れないことで合意し、政治的・外交的な決議採択の道筋を模索することで合意したとした。

(中島主席研究員)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799